

人権センターだより

電話 82-0076

ファクス 82-0110

Vol. 139



第4回ふれあい人権講座

「アフリカ系アメリカ人の

人権を考える」

〜ブラック・ライブズ・マター〜

9月8日の第4回ふれあい人権講座では、アフリカ系アメリカ人（アメリカに暮らす黒人の方、以下、便宜上、黒人と書きます）の人権について考えました。現在、世界中で黒人差別に抗議する運動が続いています。ブラック・ライブズ・マター「黒人の命は大切だ（和訳は種々あります）」がスローガンです。日本では漠然と肌の色による差別と捉えがちですが、今回きっかけになった事件を含め、被害にまで至る深い差別で、歴史を振

り返って見ないと理解に近づけません。

欧州の大航海時代に（彼らにとっては）発見した新大陸アメリカで先住民を虐殺し占領して植民地にしました。手に入れた広大な土地で大農園を経営するために、アフリカから黒人を買収し、奴隷として働かせ豊かになっていきました。

やがて、社会構造が違う北部の州と南部の州とが、奴隷制の廃止か継続かを争う南北戦争（1861〜1865年）が起こります。結果、奴隷制廃止を目指す北軍が勝利し「奴隷解放宣言」が発布されます。黒人奴隷はモノから人間として認められ移動も可能になりました。しかし、州法によって人種隔離が認められ、公共施設を始めあらゆる場所で、白人と有色人種の分離が続きます。解放とは程遠い実情が長く続きました。この間、厳しい差別が公然と行われ、白人が黒人を私刑（リンチ）にかける事も頻繁でした。

1950年代半ばになって、黒人の公民権獲得を目指す運動が高まり、非暴力による公民権獲得運動の指導者キング牧師の活躍、ケネディ大統領、ジョン

ソン大統領の英断により1964年7月、公民権法が制定、法の上での人種差別が終わります。その後、初の黒人大統領オバマ氏（2004年）の登場などを経て、現在はトランプ大統領です。トランプ氏は白人優先の言動が目立つ方ではありません。深く長い歴史がある黒人差別は、現実の社会の中に色濃く残っていて、今年5月に黒人男性が白人警察官の過剰に見える拘束で亡くなったことを契機に大規模な抗議デモが起こった、というのが大まかな歴史です。

私たちも対岸の火事としてしまふことなく、さまざまな人権課題とともに関心を持って考え続ける必要があると思います。



▲ニューヨークの「自由の女神像」。かかげる松明は自由を照らすためです

10月の人権相談・

行政相談のご案内

日時 10月9日(金) 午前9時〜12時
場所 子育て支援センター
★事前の予約は不要です。
秘密は固く守られますので、お気軽にお越しください。

第5回のふれあい人権講座

映画「アイ・ラブ・ピース」鑑賞

聴覚障がいがあり、義肢装具士を目指す女性が島根県大田市からアマガニスタンに渡ります。地雷で片足を失った少女と出会い……
日時 10月6日(火) 午後6時〜8時
場所 日南町人権センター

「人権標語」を募集します

今年も人権標語を募集します。
ご住所、お名前をお書きのうえ、お手紙、ハガキ、ファックスで人権センターまでお送りください。

同和問題職場研修会について

例年開催している研修会は感染症拡大防止のため行いません。
ご参加いただいたている事業所には、事業所ごとでの開催を願います。ご案内をお送りする予定です。

